

令和6年度第1回健康日本21かりや計画推進委員会 会議録

令和6年7月31日（水）午後1時30分

刈谷市総合健康センター3階 講座室

【出席】 平川委員、宮地委員、鈴木委員、染谷委員、宮田委員、山口委員、野々山委員、小室委員、清水委員、正木委員、杉浦委員、荒河委員、山本委員、中村委員、伊藤委員

【欠席】 1名（稲垣委員）

【事務局】 加藤福祉健康部部長、杉浦福祉健康部政策監、新實健康推進課課長、石川課長補佐、塚本健康企画係長、笠井成人保健係長、羽田野健康増進係長、高橋主任主査、矢田杉原子育て支援課課長、角岡課長補佐、青木課長補佐（母子保健第2係長兼務）、宮地母子保健第1係長

【傍聴人】 2名

【議題】 1. 開会

2. 議題

(1) 健康日本21かりや計画の概要と第2次計画の進捗状況について

(2) 第三次健康日本21かりや計画（案）について

(3) その他

1 開会（事務局）

配布資料の確認（事務局）

会長及び職務代理者の選出について

- ・あいち健康の森健康科学総合センターの平川委員に依頼することを提案（事務局）
- ・就任について同意を得たので、会長は平川委員に決定
- ・会長あいさつ
- ・職務代理者として宮地委員を指名

2 議題

(1) 健康日本21かりや計画の概要と第2次計画の進捗状況について

事務局より説明

（質疑応答）

会 長：刈谷市の取り組みはすごく進んでいると思う。ただ、ボランティア活動、地域の活動の機会はあるが、参加はしていないと思う。

委 員：第2次計画の目標達成の評価について、この中でコロナが影響しているか分析されているところがあるか。

事務局：細かい分析はできていないが、例えば運動習慣者等の値は、コロナが一般的に蔓延し始めた令和2年辺りから多少変化している。コロナの蔓延により、運動する機会が減ってしまったということが考えられるが、コロナだけが要因ではないと思う。

委員：ボランティア活動などはコロナで相当落ちこんだ。そういうことを踏まえて、第3次計画を考えてほしい。

会長：今後も統計を取ることにより、改善してきたかというのは分かるか。

事務局：第3次計画においても、第2次計画の目標のうち一定数は引き続き統計をとっていく。運動習慣者の値などは大事な指標なので今後も継続して取っていくと思う。それにより推移が分かってくるかと思う。

委員：評価はA B C Dで評価されているが、どこの方がどのように評価しているのか。

事務局：令和4年度の数字をもって、第2次計画を作ったときに定めた目標値に対して、実績値がどの程度目標を上回ったのか、目標まではいってないけれども、改善をしていたのか、もしくは、変化がないかをA B C Dで評価している。

委員：運動する人が減ったのは、先ほど言われていたようにコロナだけじゃないと思う。減った原因・要因をもう少し深掘りした方がいいと思う。

事務局：第3次計画の目標設定をする際に、分析をしっかりと、参考にしたいと思う。

会長：私たちの施設の利用者数もコロナ前に戻っておらず、それは民間の運動施設に流れたのではないかということで納得していたのだが、今の話だと、市民全体が運動しなくなっているとすると危険な状況だと思うのでぜひ分析してほしい。

会長：未成年者の飲酒の減少という目標項目で、市内の中学校、高校と連携とあるが、具体的にどういったことか。

事務局：学校に飲酒に関する授業をやれないかとアプローチし、協力いただけたところにアルコールパッチの体験や、若い頃からの飲酒のリスクなどについて話をした。その後、授業の中でこのような時間をとるのが難しいと学校から話があったことと、保健体育の授業で、飲酒、喫煙の授業をしていると聞き、学校での啓発は形を変えて実施してきたのが現状。

委員：高齢者の一人暮らしで、孤独から朝からお酒飲んでいる例が増えている。そのような指標はあるか。

事務局：高齢者の飲酒に関する指標はない。コロナという特殊な期間において変化した生活習慣は、コロナ禍が明けても心地よければ継続してしまうこともあると思う。私たちも座りっぱなしが多くなっている。こういった視点も第3次計画に盛り込めたらと思う。また、飲酒のガイドラインで変更になった点も盛り込んでいけたらと思う。

委員：コロナにより体操する機会が減ったなどいろいろ言われているが、世の中の変化として働き手不足ということで、今まで家庭にいた主婦も高齢になっても働いている。そのため平日に運動していただく機会が減ってきているのではないかと思う。

会長：平日夜間のオンラインプログラムの必要性を感じている。ニーズが多様化している。

女性のライフコースが大事になってくる。産後うつ以外にも、男女別の分析や、更年期の問題、ワーク・ライフ・バランスなどの視点も入れていただければと思う。

(2) 第三次健康日本21かりや計画(案)について

事務局より説明

(質疑応答)

委員：私は子育て支援の現場にいるが、こころの問題を抱えている方が多いと思う。その部分の健康格差が大きいと思う。こころの問題は、思春期の頃に大きな問題を抱えている方が多いため、できれば子どもというところも考え入れてほしい。

委員：トレーニング施設に来所される方が高齢になってきており、認知機能などの低下等により、運動を継続していくことが当施設では難しいことがある。本人や家族は体を動かす場所が欲しいと言われることもあるが、このような方の受入れ場所がないのが現状。また、女性のライフステージごとという話があったが、運動するには子どもを預けなければならない場合、預け先がない。そのあたりもサポートすれば可能ではないかと思う。

会長：待っていてもなかなか来てもらえないので、アウトリーチとして、積極的に地域に出ていかないといけないかもしれない。

他市の計画もそうだが、本計画に刈谷市らしい特徴がない。刈谷市独自の困りごとを踏まえた内容が盛り込まれ、刈谷市の方のための計画ができるといいと思う。

(3) その他

今後のスケジュールを事務局より説明

閉会(会長)